

研究課題名	心原性院外心肺機能停止例における、ACC アルゴリズムを用いた予後予測の実際
研究の意義・目的	本研究は、日本全国の救急隊が収集したウツタインデータ（消防庁が主導して、2005年からデータ収集を行っています）を用いて、後方視的に解析を行う事で、心肺機能停止となった方の救急搬送時の状況と、1ヶ月後の予後との関連を調査する事を目的とします。 また米国心臓病学会（ACC）から予後不良因子として提起された項目の内、採血を確認しなくても分かる因子（撃の無い心肺停止、初期波形が電気ショックの適応とならない、バイスタンダー心肺蘇生処置なし、蘇生までの時間が30分以上、心肺蘇生を継続中である事、年齢>85歳）が、実際の予後にどのような影響を及ぼしているのかという点に着目し、予後予測モデルを構築する事を目標としています。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日～2024年8月31日
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2005年から2019年において、日本全国で院外心肺機能停止のため医療機関へ搬送となった方の内、心原性が疑われる方が対象となりますが、18歳未満、心肺蘇生処置が行われていない症例は対象外とします。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	①基本患者情報：発症年月日、年齢、性別 ②目撃情報、救急隊到着前の情報：目撃の有無、目撃時刻、バイスタンダーCPR（心肺蘇生）種別（家族、友人、同僚、通行人、その他、消防隊、救急隊、救急救命士）、バイスタンダーCPR有無、心臓マッサージの有無、人工呼吸の有無、市民による除細動の有無、バイスタンダーCPR開始時刻 ③救急隊接触後の状況、心停止の推定原因、処置など：初期波形、心原性院外心肺機能停止の種別（確定、除外診断による心原性、それ以外）、救急隊による除細動の有無、除細動実施時刻、除細動回数、気道確保の有無、静脈路確保の有無 ④救急隊接触前後の時間経過情報：覚知時刻、現場到着時刻、接触時刻、（救急隊による）CPR開始時刻、病院収容時刻 ⑤転帰及び予後 心拍再開の有無、心拍再開時刻、1か月後生存、1か月後の脳機能カテゴリー、1か月後の全身機能カテゴリー
試料・情報の他機関への提供	ウツタインデータの情報は、総務省消防庁救急企画室にて完全に匿名化された後、本学が情報提供を受け、解析を行うものです。 個人を特定できる情報は含まれておらず、また本学から他機関への提供もございません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究の解析は、大阪公立大学大学院医学研究科循環器内科学、医療統計学のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	情報は、総務省消防庁救急企画室にて完全に匿名化された後に本学へ提供されていますが、本学においてその匿名化データは下記の者が責任をもって管理します。 大阪公立大学大学院医学研究科 循環器内科学 研究責任者 島田 健晋
本研究の利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 循環器内科学 （担当者氏名）島田 健晋 電話番号：（06）6645-2121